

小学校「生活科」と幼稚園教育における「食」をテーマにした図書教材の評価

Evaluation of Educational Books on "Food" for "Living Environment Studies" in Elementary Schools and for Studies in Kindergartens

鈴木 千 春*
SUZUKI Chiharu

要 旨

本研究の目的は、幼小連携における食をテーマにした図書教材の評価を行うことである。まず食べ物に関連付けた調査用図書15冊の検討を行った。調査用図書は生活科の「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する」学習内容と幼稚園教育の「環境」及び「健康」の内容が含まれている。

評価の結果、季節や行事の学習には、全ての調査用図書が活用可能であるが、食をテーマにした図書教材としては9冊が選定できた。

Abstract

The purpose of this research is to evaluate educational books about food for young children in terms of collaboration between kindergartens and elementary schools. The 15 books selected for this research concerns "activities related to people around them, society and nature" in government course guideline for elementary schools, and "environment" in that for kindergartens. All the books researched turned out to be fit for learning seasons and events; Nine for learning food.

キーワード：食，生活科，幼稚園教育，図書教材

keywords：food, living environment studies, kindergarten education, book materials

1. 研究の背景と目的

幼小連携に関わる研究は、小学校の生活科が新設されて以降、様々な方面から蓄積されている（末藤2010、伊勢2016、加納2017など）。また、小学校の学習内容における各教科間の関連を図りながら、幼小の接続を検討した研究（福士2014、藤井・野田2016、松田・山田2016、永田・鈴木2018など）も蓄積されてきた。

今次の幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針（以下、幼稚園教育要領等）（文部科学省2017a, 2018）の改訂において、小学校教育との円滑な接続を確保するにあたり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、就学前の幼児の具体的な姿が示された。また、小学校学習指導要領（文部科学省2017b, 2017c）の改訂では、第1章総則において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導の工夫をすること」や「小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接

続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。」など、幼小連携の必要性に鑑みた内容が明記されている。さらには、カリキュラムマネジメントの重要性に関する言及も見られることから、幼小のスムーズな接続に向けた、カリキュラム編成における研究は、今後ますます蓄積を要する喫緊の課題と言える。

安藤（2020）は、幼小の学びの連続性に着目し、小1担任における授業実践前後の意識変容を明らかにしている。中でも「幼児期の教育での学びが身に付いていることを自覚させ、その学びをさらに発揮できるように支援することが大切だとする意識」が見出された。つまり、幼稚園等での実践経験のない小学校の教師は、幼稚園教育要領等の「内容」を理解し、子どもが積み重ねてきた経験を想定しておくことが、小学校の教師が行う支援にとって有用であることを報告している。

鈴木・永田（2018）は、小学校学習指導要領と幼稚園教育要領を対象に、カリキュラムマネジメントの観点

から、小学校生活科の学習内容を軸にして、1つ目は家庭科及び幼稚園教育「5領域」の学習内容の比較を行い、現状と課題を指摘している。2つ目は、生活科の教材の必要性を考慮し図書教材の選定が行われた。幼稚園教育「5領域」とは、幼児の発達の側面から枠組みされた5つの領域であり「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の内容のことを示す。

比較の結果、生活科の学習内容には幼稚園教育「5領域」の内容と類似している点が多数あることを明らかにしている。

その一方で、「健康」「環境」に含まれる、食に関する内容が、生活科には記載がなく、家庭科に該当している現状を報告している。しかし、小学校においては、多くの学校で就学後から給食がはじまり、栄養教諭による指導を含め食育は推進されている。また、全ての学年に対する学級活動においても、「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」について指導するように記載されている（文部科学省2017b）。この点を踏まえると、幼小のスムーズな接続において、食に関する教材の提案は必要であると考えられる。

2つ目の図書教材の選定では、学校図書館用カタログから、生活科の教材として収録されている図書を抽出し、幼小連携の環境整備の一つとして提案がなされた。

以上の背景を踏まえ、本研究では、鈴木・永田（2018）の図書教材の提案を援用し、幼小連携における食をテーマにした図書教材の評価を行うことを目的とする。

2. 研究の方法

2.1 調査用図書

本研究の調査用図書は、鈴木・永田（2018）が学校図書館用カタログから抽出したアイテムの中の、NO.1「季節と行事と食べ物のおみせ絵本」に収録されている15冊である（表1）。

鈴木・永田（2018）が図書教材の選定に活用した学校図書館用カタログは、図書紹介欄に対象となる読者層や教科名などの記載があり、幼児から高校生までを対象に、学習に役立つ図書として紹介されている。また、シリーズや関連本などはまとめてセット化したものをアイテムとするなど、目的別に選定しやすく、購入後の環境を整えやすいといった特徴がある。調査用図書にNO.1のアイテムを利用する理由について下記に示す。

前章において述べたように、鈴木・永田（2018）の研究では、小学校学習指導要領の生活科には、食に関する学習内容の記載がないといったことが分かっている。しかし【身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容】として「(5) 季節の変化と生活」の内容があ

り、ここでは、「(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ、自分の生活を楽しくしようとする。」と記載がある。この内容に合致した図書教材としてNO.1が抽出されていると推察できる。

幼稚園教育の内容では、「環境」において「(3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。」と記載があり生活科と共通している。

一方で、NO.10「わくわくたべもの おはなしえほん」も食べ物扱った図書であることがわかる。しかし、生活科には食に関する学習内容の記載がない。つまり、NO.1のアイテムには、季節や行事の内容を、食べ物と関連付けて学習することができる図書が収録されているが、NO.10のアイテムは、どのような学習内容の視点により、選定されたものなのかが推察し難い。よって、食をテーマにした図書教材としてNO.1のアイテムを利用できると考えた。

2.2 評価項目

図書教材の食をテーマにした内容として、幼稚園教育の「健康」の内容「(5) 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。」に注目した。その取扱いとして、次のように明記されている。「健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。」

以上を踏まえ評価項目は、①「食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりすることができる」、②「食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちが育つようにすることができる」の2つを設定した。

2.3 調査方法

調査用図書の読後、評価項目の内容が読み取れるかについて絵や文章を分析した。

分析にあたっては、教科教育を専門とする大学教員と、小学校教科教育法と保育内容を概ね学習済みの学生、計2名の判断が一致した項目を可とした。

3. 結果と考察

分析結果を表2に示す。まず、調査用図書における基本情報については、作者、出版社名、発行年、あらすじとキーワード（網掛け）を記した。

評価項目を含む内容であるかについては、可とする該当箇所に○印を記入した。尚、調査用図書はその特性上、文章は平仮名表記、また、言葉と言葉の間にスペースが表記されているものが多い。しかし、あらすじにお

いては読み易さを考慮し、漢字に変換したり、必要に応じてスペースを削除したりして記述した。また、季節や行事、食べ物が分かる部分をキーワードとしてあらすじに盛り込んだ。

表1 調査用図書のもととなるアイテムと収録図書名

NO	アイテム名	収録図書名	冊数
1	季節と行事と食べ物のよみきかせ絵本	「クリスマスのおかいもの」「かえうたかえうたこいのぼり」「ぼんちゃんのぼんやすみ」「くまのこのとしこし」「おじいちゃんちのたうえ」「ゆめちゃんのハロウィーン」「まんまるいけのおつきみ」「いもいもほりほり」「せつぶんのひのおにいっか」「たなばたまつり」「ひみつひみつのひなまつり」「えんそくおにぎり」「いもほりコロケ」「おぞうにくらべ」「ひなまつりのちらしずし」	既刊 15巻
2	親子で楽しむプレNEO図鑑	「かず・かたちの図鑑」「きせつの図鑑」「既刊こくごの図鑑」「せかいの図鑑」「にっぽんの図鑑」「よのなかの図鑑」「くふうのずかん」「げんきの図鑑」「ふしぎの図鑑」「せいかつの図鑑」	全10巻
3	調べてみよう 名前のひみつ	植物編「どんぐり図鑑」「雑草図鑑」、生きもの編「昆虫図鑑」「海の生きもの図鑑」	全4巻
4	やさしくわかる 星とうちゅうのふしぎ	「月と地きゅう」「太ようとわく星」「星とせいざ」	全3巻
5	どうぶつの赤ちゃんとおかあさん	「ライオン」「ゴリラ」「チーター」「ヒグマ」「オランウータン」「ラッコ」「ゾウ」「トラ」	全8巻
6	足元のすてきな世界 甲斐信枝のかがかく絵本 セット	「雑草のくらし」「ざっそう」「たねがとぶ」「ちようちょ」「はやくこ ないかな」「つくし」「のげしとおひさま」「稲と日本人」	全8巻
7	〔図書館版〕 スクール鬼ごっこ	「めざせ！鬼ごっこ博士」「鬼ごっこを楽しむ」「鬼ごっこはスポーツだ」	全3巻
8	たのしいあやとり大図鑑	「みんなであやとり」「ひとりであやとり」	全2巻
9	たのしいちしきえほん 第3期 7巻セット	「もちかたのえほん」「和食のえほん」「みんなの防災えほん」「きのこのふしぎえほん」「たべかたのえほん」「生命の歴史えほん」「天気 のふしぎえほん」	全7巻
10	わくわくたべもの おはなしえほん	「おいしいみず」「ぐるうんぐるん」「そらのおっばい」「うしおくん とはすひめちゃん」「トコロウとテンジロウ」「ひよろのっぼくん」 「おたねさん」「ぼくのひよこ」「ビッグパーン！」「ほなまた」「いも ほりこうだい ホーリーとホーレ」「ぬーぐぬぐ」	既刊 12巻

鈴木・永田（2018）が抽出したアイテムと収録図書（Aカタログ）を引用

表2 調査用図書の基本情報と評価項目に対する該当有無

題名	作者	出版社名, 発行年	評価項目①	評価項目②
あらすじ・キーワード				
A. 「クリスマスのおかいもの」	たしろちさと	講談社, 2009		
<p>もみのきマンションに住んでいる, うさぎ, きつね, あひる, りす。仲の良い4匹の動物たちが, クリスマスの準備を始めます。うさぎとあひるとりすは, 町へプレゼントを買いにいきました。きつねは, プレゼントとしてみんなにそっくりな木彫りの人形を作るために家に残りました。プレゼントの準備ができた4匹は, そろって家に飾りを付けたり, ごちそうを作ったりしました。温かいシチューにチョコレートケーキを囲み, 歌を歌ったり, プレゼント交換をしたり, 楽しいクリスマスの夜を過ごしました。</p>				
B. 「かえうたかえうたこいのぼり」	石井聖岳	講談社, 2010		
<p>トラのお父さんが, こいのぼりを垣根にくくり付けていると, 子どもたちがこいのぼりの歌を歌い始め, お父さんと一緒に遊びます。楽しくなった子どもたちは, もっともっとと, こいのぼりの替え歌を作って歌います。「家よ〜り〜で〜か〜い こいの〜ぼ〜り〜」「蛇よ〜り〜な〜が〜い こいの〜ぼ〜り〜」などと。歌い遊び疲れた子どもたちは, お父さんにくっついて甘え, 大きなこいのぼりの口の中で眠りました。</p>				
C. 「ぼんちゃんのぼんやすみ」	あおきひろえ	講談社, 2010	○	
<p>ぼんちゃんは盆休みに田舎のおばあちゃんの家に行きました。ぼんちゃんは畑でなすやいんげんを収穫し, 晩ご飯の天ぷらをかわけによそって, お仏壇にお供えをしました。ご先祖様をお迎えする準備です。仏間にはスイカや桃などの季節の果物や, ドーナツや金平糖, 最中, キャラメルなどの懐かしいお菓子が置かれています。お盆の最終日, ぼんちゃんはおばあちゃんと海にお供え物を流しに行きました。</p>				
D. 「くまのこのとしこし」	高橋和枝	講談社, 2010	○	
<p>「もうすぐ来年がくるよ」と聞いた熊の子は, 「らいねん」がどんなものなのか気になります。お父さんとお母さんは家をきれいにし, 年賀状を書いて, 買い物に行きます。おせち料理を作ったり, 年越しそばを食べたりして「らいねん」が来るのを待っています。お正月を迎える熊の一家のテーブルには, お重に詰められた, 色とりどりのお煮しめ, 金色の栗きんとん, つやつや光る黒豆, それに伊達巻, ごまめ, 昆布巻きなどが準備できました。夜の12時, 除夜の鐘が鳴り, お父さんが熊の子に言いました。「明けましておめでとう!」</p>				
E. 「おじいちゃんちのたうえ」	さかももみ	講談社, 2011	○	
<p>田植えの季節になると, 僕はおじいちゃん家に行きます。家族みんなで田植えを手伝うのです。苗を運ぶ田んぼ道で蛙や蛇と出会ったり, 裸足で泥んこの田んぼに入ったり, 自然と触れ合いながら, へとへとになるまで, 田植えが続きます。苗の空き箱を洗うため, 水場に空き箱を運ぶことも手伝います。お昼ご飯は, もちろんおじいちゃんとおばあちゃんのお米で作ったおむすび。おいしくて僕は4個も食べました。田植えが終わったのは夕方, よく頑張ったご褒美にと, 僕はお小遣いをもらいました。働いてもらったお金は, 普通にもらうより何倍も嬉しいと思いました。</p>				
F. 「ゆめちゃんのハロウィーン」	高林麻里	講談社, 2011		
<p>もうすぐハロウィーン。ニューヨークに住むゆめちゃんは, 初めてハロウィーンのお祭りをするようになりました。部屋の飾りを作ったり, かぼちゃに目や口を書いたり, 魔女に変身するためにドレスを作ったりと, お母さんと一緒にハロウィーンの準備を楽しみます。そして10月31日, 「トリック オア トリート」と言いながら, 呼び鈴を鳴らすと, ドアを開けた人からお菓子をもらいました。ある家はお化け屋敷, ある家では賑やかなハロウィーンパーティーが催されていました。ゆめちゃんはたくさんのお菓子をもらって初めてのハロウィーンを楽しみました。</p>				
G. 「まんまるいけのおつきみ」	かとうまふみ	講談社, 2011		
<p>丘のてっぺんにある, まんまる池の魚たちは, 今まで一度も池から顔を出したことがありません。空気を吸うと死んでしまうという言い伝えがあるからです。亀のおじさんから, まんまるお月さまがきれいなお月見の話聞いた魚たちは, 亀のおじさんに教わって「す〜は〜す〜は」と呼吸の練習, 水から顔を出す練習をしました。満月の日, 見事なお月さまが空に現れました。魚たちは練習の成果を発揮して水面に顔を出し, まんまるお月さまを初めて見ることができました。</p>				

題名	作者	出版社名, 発行年	評価項目①	評価項目②
あらすじ・キーワード				
H.「いもいもほりほり」	西村敏雄	講談社, 2011	○	
<p>「いもほり ほりほり いもほりほり」調子の良い掛け声をかけながら、3匹の豚と1匹の鼠が山羊じいさんの畑にやってきました。芋ほりの許可をもらった4匹は、泥だらけになりながら掘り続けます。もぐらに蛇にだんご虫、土の中の生き物とも出会いながら、面白い形のお芋をたくさん収穫できました。みんなで焼いたお芋を頬張りながら、笑顔いっぱいの4匹でした。最後はお決まりの豚が「ブー」に大笑い。</p>				
I.「せつぶんのひのおにいっか」	青山友美	講談社, 2012		
<p>人間には見えない鬼の一家が、人間の家で暮らしています。朝は家の住人と同じように、トイレに行ったり、ご飯を食べたり、髪をセットしたりと忙しく、人間が出かけた後は、新聞やテレビを見たり、おもちゃで遊んだり、のんびんだらりと気ままに過ごします。しかし、節分の日だけは違っていました。住人が見えない鬼に「鬼は一外！福は一内！」と豆を投げるので、鬼は慌てて屋根の上へと逃げて行きます。見渡すと他の家の屋根にも鬼たちが！鬼たちは、一晩ここで眠ります。家の中には風によってフワリフワリと福の神がやってきたからです。</p>				
J.「たなばたまつり」	松成真理子	講談社, 2010		
<p>もうすぐ星の祭り、七夕です。広場の笹がさらさら揺れています。毎日誰かがやってきては、短冊に願い事を書いて笹に飾ります。笹は風の強い日も雨の日も短冊が取れないように頑張ってくれました。七夕祭りの日、広場では、出店が並び、花火が上がります、大勢の人が集まり賑わっています。夜になるとみんなの願いの言葉が、夜空を登っていきます。何日も何年も何十年もかかって星に願いの言葉が届いたとき、星はきらりと光って合図を送るのです。</p>				
K.「ひみつひみつのひなまつり」	鈴木真実	講談社, 2015	○	○
<p>押し入れから何やら声が聞こえます。えいちゃんがのぞき込むと、お内裏様とお雛様が運動がしたいと出てくるころでした。えいちゃんはお内裏様とお雛様、三人官女に五人囃子の人形たちと一緒に仲良く運動会をします。競技を楽しんだ人形たちは満足し、にこやかな表情で七段飾りに落ち着きます。3月3日の雛祭り。雛段には、ひし餅、甘酒、桃の花が供えてあります。女の子の健やかな成長を願う食卓には、ちらし寿司に蛤のお吸い物、えいちゃん好きなごちそうがたくさん並んでいます。食卓を囲んで楽しい団らん、笑顔いっぱいのお祭りでした。</p>				
L.「えんそくおにぎり」	宮野聡子	講談社, 2013	○	
<p>遠足の日、きみちゃんは、お母さんに教えてもらいながら、大好きなおにぎりを作ることにになりました。「手をお椀の形にして、回しながらにぎるのよ。」「優しく一回にぎったら、くると回してもう一回。」「海苔を巻いたら出来上がり。」「お母さんの三角おにぎりは美味しそう。でも、きみちゃんのおにぎりはぐちゃぐちゃ、今にも崩れてしまいそう。お母さんは、お茶碗にラップを敷いてご飯をのせてにぎる方法をきみちゃんに教えました。これなら簡単！丸い美味しそうなおにぎりができました。山のとっぺんに到着、桜の木の下で友だちと食べるお弁当は笑顔いっぱい。自分で作ったおにぎりは、とびっきり美味しい味がしました。</p>				
M.「いもほりコロッケ」	おだしんいちろう	講談社, 2013	○	○
<p>まきお君は準備万端じゃが芋ほりに出かけます。畑についたら早速芋探し。しかし、なかなか見つかりません。まきお君は素手でぐんぐん土を掘り進めました。なんとそこに大きなじゃが芋が！友だちのとっぺい君がびっくりするような大きなじゃが芋です。「お母さん、このじゃが芋で何か作ってー。」お母さんとまきお君と妹のことちゃんと一緒に、おいしいコロッケ作りの始まりです。洗ってゆでたじゃが芋に炒めた玉ねぎとお肉をまぜて、味をつけたり、パン粉をつけたり、油で揚げたらホクホクのコロッケが完成しました。自分で収穫したじゃが芋が美味しいコロッケになって、大満足のまきお君です。</p>				

題名	作者	出版社名, 発行年	評価項目①	評価項目②
あらすじ・キーワード				
N.「おぞうにくらべ」	宮野聡子	講談社, 2014	○	○
<p>きみちゃんは、お正月におじいちゃんとおばあちゃんの家に行きました。そこで、色々な味のお雑煮に出会いました。初詣で食べたお雑煮にはお餅、人参、大根、ごぼう、里芋、小松菜が入っていました。友だちのお家のお雑煮は味噌味でした。魚やイクラが入ったお雑煮もありました。お餅も丸や四角や色々あると聞きました。きみちゃんは、おばあちゃんとお母さんと一緒にお雑煮を作ります。かつおだしと鶏肉を入れたお鍋の中に椎茸、三つ葉、人参、大根を入れて煮込みます。焼いたお餅も入れてお雑煮ができました。醤油味に柚子の香りがしています。きみちゃんは自分で作ったお雑煮をとっても気に入りました。</p>				
O.「ひなまつりのちらしずし」	宮野聡子	講談社, 2016	○	○
<p>雛祭りのパーティーの日、きみちゃんの家には、友だちが遊びにやってきます。きみちゃんはお母さんと一緒にちらし寿司を作ることになりました。「まずは、酢飯を作りましょう」飾りには蓮根、菜の花、海老、いくら、錦糸卵、椎茸、桜でんぶ、さやえんどう。飾りに使う材料には意味があることを知り、全部使って作ります。お母さんは蛤のお吸い物も作ってくれました。ちゃんと意味があるのです。食べ物の意味を知ったみんなは、料理を味わい楽しく雛祭りの食事をしました。</p>				

3.1 評価項目に該当する図書

評価項目①と②に該当する図書は、K,M,N,Oの4冊であった。

Kは、雛段にお雛様やお供え物を飾り、雛祭りの準備をする様子が読み取れる。また、ちらし寿司や蛤のお吸い物をいただく場面が、画面いっぱいに描かれており、雛祭りにちなんだ食事の風景が読み取れる。また、登場人物が蛤に注目し進んで食べようとする場面などもあり、評価項目①と②に該当する。

Mは、料理の食材であるじゃが芋を自分で調達することによって、材料への愛着や大切さが芽生える場面が読み取れる。また、自分で作り、みんなと一緒に食べる場面から、料理にも食材にも興味や関心が持てるようになる。よって、評価項目①と②に該当する。

Nは、登場人物がコートを着てマフラーを着けていることから季節は冬、お正月の行事を初詣やお雑煮作りを取り上げ描いている。中でもお雑煮の絵は画面いっぱいに描かれ、具材の名前が記されている。また、作り方を真似ることができるように、分かりやすくコマ割りができているため、お雑煮作りやその具材に興味や関心が持てるようになる。さらに、お雑煮を食べながら団らんをする場面は、進んで食べている様子が読み取れる。よって評価項目①と②に該当する。

Oは、雛祭りにちなんだ食べ物に使われている材料には、それぞれ意味があることがわかり、進んで食べようとする姿が絵や文章から読み取れる。また、ちらし寿司の作り方や材料を細かく描いていることから、ちらし寿司に興味や関心が持てる内容である。よって評価項目①と②に該当する。

評価項目①のみに該当する図書は、C,D,E,H,Lの5冊で

あった。

Cは、お仏壇のお供え物やおばあちゃんのお話から、盆行事としてお盆を迎える意味やその風習が読み取れる。その中で、特にお供え物にする食事や食材には、行事ならではの物が描かれており、評価項目①に該当する。

Dは、お正月の行事に欠かせない、おせち料理のお重の中身が、絵と文章から読み取れる。また、「年越しそば」「お煮しめ」といった日本の食文化を表す言葉も、お正月行事に触れながら学べるものである。よって、項目①に該当する。

Eは、普段食べている米が、泥んこの田んぼに植える苗から始まっていることを知ることができる。また、米がおむすびになり、それをみんなで食べる楽しさが描かれており、評価項目①に該当する。

Hは、薩摩芋がどこに実っているのかを、登場人物が泥だらけになりながら収穫する場面によって知ることができる。また、自分たちで掘って焼いた芋を、みんなと楽しく食べている場面が描かれていることから、評価項目①に該当する。

Lは、桜の木が描かれていることから、春の遠足であることがわかる。お母さんからおにぎりの作り方を教えてもらう場面では、こつや手順、手元の様子などを一つひとつ区切って描いており、おにぎりを「作ってみたい」「作れる」と興味や関心が湧くような工夫がなされている。また、自分が作ったことで、食べることを楽しんでいることが伝わる。よって評価項目①に該当する。

以上、食の内容と関連付けて、季節や行事の内容を学習することができる図書教材として9冊が選定できた。また、これらの図書教材は、生活科の学習内容と幼稚園

教育の「環境」及び「健康」における内容を含んでおり、幼小連携における教材として提案ができる。

尚、項目②のみに該当する図書はなかった。

3.2 評価項目に該当しない図書

評価項目に該当しない図書は、A,B,F,G,I,Jの6冊であった。

Aは、登場人物の服装や町の様子から、季節は冬、行事はクリスマスであることは、十分に感じられるが、シチューやチョコレートケーキを作っている場面や食事を楽しんだりしている場面は少なく、評価項目には該当しない。

Bは、「端午の節句」行事を代表するこいのぼりがストーリーの中核に描かれており、行事ならではの食に関する絵や文章は描かれていない。

Fは、ハロウィーンの行事がどのようなものであるかは、登場人物が準備する様子や、お母さんのお話から読み取れるが、ハロウィーン行事にまつわる食に関する絵や文章は描かれていない。

Gは、「十五夜」「仲秋の名月」などと呼ばれる、月のきれいな日のお月見の様子が描かれているが、食に関する描写は、お供え物の団子が小さく描かれている程度であるため、評価項目には該当しない。

Iは、「鬼」と「福の神」と「豆を投げる行為」を中心に、節分行事が表現されている。そのため食をテーマにした節分行事は描かれていない。

Jは、浴衣に半そでシャツ、出店に花火といった夏の風物が描かれ、季節は夏であることが伝わる。また、短冊に願いを込めて笹飾りをするといった七夕行事であることも分かる。しかし、それにまつわる食をテーマにした描写は見当たらない。

以上、6冊は生活科や幼稚園教育の季節や行事に関連する学習に活用できるであろうと推察するが、本研究の目的に至った食をテーマにした内容を含むものではなかった。

4. まとめ及び今後の課題

本研究は、幼小連携における食をテーマにした図書教材の評価を行うことを目的とし、まずは、鈴木・永田（2018）が提案した15冊を調査用図書として検討を行った。調査用図書は学校図書館用カタログの中から、「季節と行事と食べ物のよみきかせ絵本」として収録されている図書である。これは食べ物と関連付けながら、生活科の「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する」学習内容と幼稚園教育の「環境」の内容と合致し、さらに「健康」の内容をも含んでいる。

図書を評価するにあたっての評価項目は、①「食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関

心をもったりすることができる」、②「食の大切さに気づき、進んで食べようとする気持ちが育つようにすることができる」の2つを設定した。

結果は、調査用図書15冊の内、9冊が食の内容と関連付けて、季節や行事の内容を学習することができるものであった。6冊は食をテーマとはせず、他の題材を用いて季節や行事が描かれていた。

よって、幼小連携において、季節や行事の学習には、15冊の調査用図書が活用可能であるが、食をテーマにした図書教材としては、「3.1 評価項目に該当する図書」において示した9冊が選定できた。

その一方で、学校図書館用カタログにアイテムとして収録されている図書は、幼小連携における学習内容に、全てが合致しているとは言い難い現状がある。また、本研究における調査用図書は、出版社が講談社1社であったことも限定的であった。つまり、学習教材として内容にあった図書教材の提案が、本研究の範囲内においての評価結果を基にしているため、今後は、幅広く図書を調査する必要がある。さらには、評価した図書が教材として活用可能であるかを、実践を通して検討することも必要である。

注

小学校学習指導要領は「生活編」及び「家庭編」、教科名は「生活」及び「家庭」が正式名であるが、教科を示す場合、本稿においては、それぞれ「生活科」及び「家庭科」と表記している。

引用文献

- 安藤哲也（2020）幼小の学びの連続性に着目した小1担任の意識に関する事例的考察—生活科の学習指導場面を窓口にして—、日本教科教育学会誌、43（1）、21-30
- 藤井達也・野田敦敬（2016）理科と生活科の接続の意義に関する一考察—理科に関する学習および生活科の歴史的背景を視点として—、愛知教育大学教職キャリアセンター紀要、1、1-8
- 福士顕士（2014）小学校生活科における「気づきの質」に関する一考察：生活科から理科への接続の視点から、川村学園女子大学研究紀要、25（2）、71-87
- 伊勢正明（2016）生活科の指導内容・方法が示す保幼小連携のモデル、帯広大谷短期大学紀要、53、67-76
- 加納（2017）幼小の連携・接続における生活科の果たす役割と可能性、愛知教育大学教職キャリアセンター紀要、2、9-16
- 松田智子・山田仁（2016）生活科から小学校社会科への連続性の一考察：防災教育と減災教育に視点をあてて、奈良学園大学紀要、5、141-150

- 文部科学省（2017a）幼稚園教育要領
文部科学省（2017b）小学校学習指導要領
文部科学省（2017c）小学校学習指導要領解説生活編
文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説
永田智子・鈴木千春（2018）「家庭科」からみた「生活科」の学習に関する現状と課題-学習指導要領，教科書，実践研究の分析-，兵庫教育大学研究紀要，52，89-99
末藤美津子（2010）「言葉」に着目した「幼保小連携」に関する研究の意義-教育政策の動向から-，東京未来大学研究紀要第，3，45-55
鈴木千春・永田智子（2018）「生活科」の学習内容に関する現状と課題及び教材の提案-小学校「家庭科」と幼稚園「5領域」との比較から，兵庫教育大学学校教育学研究，31，207-213